

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

第四期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価案の概要

1 全体評価

優れた業務の達成状況にあり、期間終了時には、中期目標の達成が見込まれる(A相当)

高く評価すべき事項

- ・研究開発・技術支援の両面で、様々な事業を展開し、中小企業の製品化等に貢献
- ・研究開発では、獲得した知見を中小企業の持つ技術やアイデアと融合させ、多数の製品を創出。外部資金導入研究の採択件数を伸ばし、研究の幅を広げ、質を向上
- ・技術支援では、個別のニーズに沿ったきめ細かく柔軟な支援を提供。5G・IoT・ロボットや航空機など成長産業分野への参入支援や、社会課題の解決に資する製品開発を支援し、実績を上げている

充実を求める事項

- ・企業からの相談内容や支援実績に関するデータの蓄積・分析による、業務運営の質の向上
- ・社会情勢の変化等に即応できる、柔軟で機動性の高い組織運営及び人材の確保・育成

2 項目別評価

評定	評語	中期目標期間見込	
		項目数	割合
S	目標の達成状況が極めて良好	3	15%
A	目標の達成状況が良好	7	35%
B	目標の達成状況が概ね良好	10	50%
C	目標の達成状況がやや不十分	0	0%
D	目標の達成状況が不十分で、見直しが必要	0	0%
項目数計		20	100%

令和6年度(案)		令和5年度		令和4年度		令和3年度	
項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
3	15%	2	10%	2	10%	2	10%
8	40%	9	45%	9	45%	8	40%
9	45%	9	45%	9	45%	10	50%
0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20	100%	20	100%	20	100%	20	100%

3 項目別の主な業務実績・評価

共同研究(A)

- 製品化又は事業化に至った件数は、4年間で63件に達し、中期計画目標値(70件)に対して90%の達成度
 - 共同研究終了後もフォローを継続し、開発製品の評価試験や改良等の支援を行い、販売促進を後押し
- ⇒ 基盤研究で得た知見を活かした実効的な支援を行うことで、共同研究から製品化へ多く発展させていることを評価

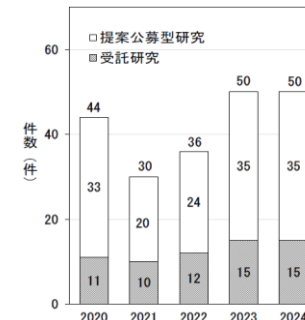
共同研究による製品化事例
【ハンディキャップをもつ
子供向けのストロー補助具】



外部資金導入研究・調査(S)

- 採択件数は、4年間で166件に達し、期間4年度目に中期計画目標値(140件)を達成
 - 歳入総額は、第三期中期目標期間の実績を上回る高い水準
 - 新規採択の増加に向け、所内の指導体制や研修の充実、職員への周知など、組織を挙げての取組を実施
- ⇒ 外部資金を積極的に獲得し、都産技研の研究の幅を広げ、質を高めてきたことを高く評価

【外部資金導入研究獲得件数】



外部資金導入研究による成果事例
【粉末溶融結合3Dプリンターの
超高速化】



新産業創出支援(S)

- DX推進センターを拠点として、5G、IoT、ロボット技術の研究開発と技術支援を実施し、共同研究等から多数の製品化・事業化に至る案件を創出
 - 航空機産業への参入・販路拡大を目指す中小企業へ共同研究や試作支援を実施し、航空機部品の受注・納入を実現
- ⇒ 多くの支援を展開し、製品化・事業化に貢献したことを高く評価

社会的課題解決支援(S)

- プラスチック代替、フードテック、サーキュラーエコノミー、障害者の活発な活動、介護環境の改善といった、社会課題の解決に資する研究開発に取り組み、中小企業の製品化・事業化を促進
 - 水素エネルギーの活用促進に向け、調査や基盤研究を実施。また、セミナーの開催により情報発信と普及啓発を推進
- ⇒ 様々な社会的課題に対応した分野で、多くの新製品、新サービスの開発につながったことを高く評価

新産業創出支援による製品化事例①
【5G通信を活用した自動巡視点検ロボットシステム】



社会的課題解決支援による製品化事例①
【一般向け日常用マグネシウム合金製車いす】

東京パラリンピックのバドミントンでメダルを獲得した、競技用車椅子の技術を活用した一般向け車いすの開発



社会的課題解決支援による製品化事例②
【産業廃材の木粉を活用した食品容器】



1 総評としての意見

「優れた業務の達成状況にある」と認められる。

2 評価の決定にあたっての留意点

- ・ 外部資金導入研究については、採択件数と歳入総額が第四期中期目標期間中高い水準を維持しており、評価できる。引き続き積極的に外部資金を獲得することで、中小企業への支援内容の充実につなげることを期待する。
- ・ 知的財産については、実施許諾の件数を着実に伸ばし、中小企業の製品開発につなげている点が評価できる。より組織的・戦略的な知財管理に取り組むことを期待する。
- ・ 社会情勢の変化に応じて、公設試験研究機関として期待される役割が多様化する中でも、都内経済の基盤となるものづくり中小企業へのきめ細かな支援を継続し、将来にわたる技術の承継を後押しすることが望まれる。

3 第五期中期目標期間の取組への要望

- ・ 多様な広報活動により支援内容や研究成果等を効果的に発信し、都産技研のプレゼンスを向上することで、より多くの中小企業の利用を促進すること
- ・ 中小企業の製品化・事業化を優位なものとするためにも、社会や経済の動向を調査・分析し、中小企業の支援に活かしていくこと